

第1学年 生活科 学習指導案

菊池市立菊池北小学校 教諭 鹿子木 友里

1 単元名 「じぶんで できるよ」

2 単元の目標

家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に行ったりすることを通して、自分の家庭生活をふり返り、家庭内の仕事や家庭生活を支えている家の人のこと、自分でできることなどについて考える。家庭での生活は互いに支え合って成り立っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活しようとする態度を養うようにする。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、入学以降の児童の家庭生活、学校生活を振り返るとともに、自分一人ですることができるようになったことを想起し、家庭、学校での実践へとつなげていく学習である。家庭は、児童にとってあまりにも身近な存在であるため、その大切さに思い至らないことが多い。だからこそ、あえて家庭で取材をしたり、改めて自分ができることを見つけたりすることによって、家の人のことを見つめ直して認識を新たにしたり、自分との関わりに気付いたりすることにつながるといえる。また、起床時刻や就寝時刻、食事、手洗い・うがいなどについて、自分の生活を振り返る活動を通して普段何気なく行っていることの大切さに気付くことができるようにするとともに、基本的な生活習慣についても関心をもてるようにしたい。

また、入学して以降の学校の支度や、給食や掃除などの当番活動についても振り返りを行うことで、自分の役割や当番活動などできることにしっかりと取り組むと、学校生活がスムーズにいったり、気持ちよく過ごすことができたりすることに気付けるようにしたい。

(2) 児童観

本校は、4つの小学校が統合してできた学校である。校区が広く、校区内には豊かな自然が多くある。本学級の児童は、校区内の保育園、幼稚園から入学してきた児童が大多数を占め、これまでの生活経験の中で、校区の良さを感じ、愛着をもつことができていると考える。

ほとんどの児童は、学校生活に慣れ、学校内では進んで学習したり、進んで係の仕事などを行ったりしている。一方で、家庭内の家事や仕事、学校の支度は大部分を保護者が担っている状態である。家の人がどれだけのことをしてくれているのか、自分たちを支えてくれているのか、普段から意識して生活できている児童は少ない。まずは、家の中にはどのような仕事があり、誰が担っているのかに気付かせ、自分の家庭内での役割に考えを広げていきたい。

なお、様々な家庭環境の児童が在籍しているため、家庭生活に言及する際は配慮が必要である。

(3) 指導観

本題材の導入では、各個人の一日の生活に関心を持たせることから始める。自分の生活をふり返り、家でしていることと学校でしていることを分けて考えられるようにする。さらに、自分がしてもらっていることの中から自分でできそうなことを考える際には、児童の意欲を大切にしながら考えられるようにしたい。そのために学校での日常会話や日記指導などを通して、児童が普段していることを把握するように努める。意欲をもって取り組もうとする児童の姿を学級全体に紹介することで、一人一人の児童の意欲や「やってみよう」という思いや願いが生まれるようにする。また、実践する時刻も考えることで、基本的な生活習慣にも意識を向けさせるようにしたい。家庭にも協力をもとめ、基本的な生活習慣を確立することの大切さを保護者にも啓発したい。

実践したことを友だちと交流することで、児童が次に何をしたいか、何に挑戦するか考えたり、決めたりできるようにしたい。その際には、各家庭の比較にならないよう配慮し、児童の意欲の喚起に努める。

自分の役割を果たすこと、規則正しく健康に気を付けて生活することは、家庭内だけの取り組みではなく、学校生活を充実したものにするためにも大切なことである。家庭で実践したことを学校生活に活かすために、学校でもできそうなことを教師が把握しておき、児童が自ら気付くことができるようにしたい。また、教師自ら規則正しく健康に気を付けて生活することを心がけ、児童と一緒に手洗いをするなど、率先して行動していきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性：家の中の仕事は家族の一員としてそれぞれが行うことで成り立っている。

連携性：一人ではできないことも、家族をお手本にしたり、教えてもらったりすればできるようになる。

責任性：自分から行動し、自分のことは自分でできるようになりたいという思いをもち、家庭での役割を果たすことが大切である。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

未来像を予測して計画をたてる力

未来の家庭像を想像し、家の仕事をする計画をたてることができる。

すすんで参加する態度

家庭のために良いと思った仕事をすすんですることができる。

つながりを尊重する態度

家族が喜ぶ姿から、家族の絆を考えることができる。

・ 本学習で変容を促すESDの価値観

幸福感に敏感になる

自らが家族の一員だと認識するとともに、家族のためにすすんで行動することによって、家族の温かさ、良さを感じることができる。

人権・文化を尊重する

家庭内では互いに尊重し合って、力を合わせることで成り立っていると気が付くことができる。

・ 達成が期待されるSDGs

3 すべての人に健康と福祉を

5 ジェンダー平等を実現しよう

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①家庭において、自分や家の人にはそれぞれ果たしている役割があると気付いている。</p> <p>②家庭において、自分の生活リズムを整えている。</p> <p>③家庭での生活は、互いに支え合って成り立っていることに気付いている。</p> <p>④自分自身が家庭を構成している大切な一員であることに気付いている。</p>	<p>①家の人の生活と比較しながら、自分の生活を見つめなおしている。</p> <p>②自分と家の人の仕事や役割を特徴でまとめたり、関連付けたりしながら、自分ができることを決めている。</p> <p>③活動前の自分と今の自分を比較して、できるようになったことを話している。</p>	<p>①家の人の役に立ちたい、自分のことができるようになりたいという思いをもち、試行錯誤しながら、家庭での自分の役割を果たそうとしている。</p> <p>②家の人の反応や願いなどから、自分が家族の大切な一員であることを実感し、これからも自分の役割を果たしていこうとしている。</p>

5 単元の指導計画（全12時間）

学習活動	学習への支援	評価
<p>1 家庭で自分が毎日していることを調べたり、家の人の生活を見たり聞いたりして調べることをもとに、家庭での自分の一日の生活を振り返る。</p> <p>2 ワークシートをもとに、自分の生活の様子や家の人の生活を比べて気付いたことについて話し合う。</p>	<p>○児童の「教えたい」という意欲を大切にする。1日の過ごし方について、教師が「良い」「悪い」などと判定し、児童の学習意欲を低下させないように留意する。</p> <p>○様々な生活スタイルがあることを考慮し、友だちと話し合う際には「良い」「悪い」「だめ」などと決めつけや批判にならないように全体で確認する。</p>	<p>ア①、② イ①</p>
<p>3 家の人がしていることや、家の人にしてもらっていることをふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の人に協力をしてもらい、家の人がしていることを調べてくる。 <p>4 調べてきたことを伝え合う。</p> <p>5 家庭で自分ができることを考え、実施する計画をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で、自分でできることに取り組む。 <p>6 取り組んだことを伝え合い、さらにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で、自分が考えたことに取り組む。 <p>7 取り組んだことをふり返り、良かったことや気付いたことをまとめる。</p>	<p>○前時を想起させ、本時の学習への見通しをもたせるようにする。</p> <p>○前時からの学びの変容が分かるようにワークシートを工夫する。</p> <p>○「家の人がしていること」「家の人にしてもらっていること」のうち、毎日続けられそうなことを決めるようにする。</p> <p>○学級通信等で事前に各家庭に活動のねらいと協力を依頼しておく。</p> <p>○振り返りを通して、「これからも続けたい」という児童の願いを引き出し、次につなげる。</p>	<p>ア③ イ② ウ①</p>
<p>8 さらに続けていきたいこと、挑戦したいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や学校で、自分が続けたいことに取り組む。 <p>9 自分が続けていることを友だちと伝え合う。</p> <p>10 学習を振り返り、続けて良かったことを伝え合う。</p>	<p>○友だち同士で紹介し合い、認め合いや質疑により内容を手直しするようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で取り組んでいる児童がいたら全体で取り上げ、広げる。 	<p>ア④ イ③ ウ②</p>